

---

# 日常だかなんだか

汐瀬 望

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日常だかなんだか

### 【Nコード】

N9967E

### 【作者名】

汐瀬 望

### 【あらすじ】

オレがその日、目を覚ましたとき、そいつは居た。青白い顔に、  
白衣着物。こいつは。

夕べの夜更かしがたたったのか、その日オレが目を覚ましたのは正午を回ってからだだった。タオルを巻いた枕からはすっかり汗を吸い込んで厭な臭いが鼻腔をくすぐり、TVではライオンの着ぐるみが右へ左へ大暴れしている。まだだるさの残る体をのっそりと起こそうとしたそのとき、オレは目玉が飛び出るかと思うほど驚いた。

オレの眼前、1メートルほどに、見覚えのない若い女が立っているのだ。

女は白い着物を身にまとい、病的なほど青白い顔色でオレを見下ろしていた。オレは何か言葉を発しようと思ったが、どうしても声が出ない。

きつと寝起きで喉が渴いているからだな。

オレは二度寝することにした。

「えええっ?!」

女が何か言った。

「なんで寝るんですか?!」

眠いからに決まっているだろう。

「だって、私幽霊ですよ？驚かないんですか？」

いや、これはきつと夢だ。夕べ夜更かしたからなあ。ドラクエのレベル上げをしていたらいつの間にかすっかり朝方になっていたのはさすがに驚いた。ハハハハ。

「ねえ、起きてくださいよう」

女が震えた声でオレを揺さぶる。寝苦しいので脇腹に蹴りを入れた。

「ギャイン！」

女は尻尾を踏まれた犬みたいな声を上げて吹っ飛んだ。その拍子で後ろにあった電子レンジの角に後頭部をしたたかにぶつけた。ゴリッ、とかいった。

「ひいひい」

女が脇腹と後頭部を押さえながら部屋をばたばたと走り回る。うっとうしいので手元にあったドラクエの攻略本を女めがけてブン投げた。ドラクエの攻略本は女の膝あたりに当たり、女は前のめりに倒れ込んだ。

「うわ、脇腹があゝ……アタマが……膝小僧が……」

女は倒れ込んだままそう言った。

「ううゝ……驚いてくださいようゝ幽霊ですよゝうらめしやゝ」

オレはベッドから起きあがった。一瞬はあっと明るい表情を見せた女をオレは一瞥してから、一本背負いのあとに直下型エルボードロップをぶちかました。

「はヒンー!」

と声を上げ、女はようやく静かになった。オレはやっと安らかに眠れることに安堵しながら、ゆっくり夢の世界へと落ちていった。

また、真っ昼間から変なものが出ないことを祈りながら。ああ、眠い。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9967e/>

---

日常だかなんだか

2011年10月5日04時50分発行